

令和元年度「全国高等学校教育改革研究協議会」 発表資料

滋賀県教育委員会事務局
高校教育課 参事 嬉野 公人

選択協議題 A 地域との連携・協働による新しい高等学校づくり

【信楽高等学校における地元甲賀市や地域支援協議会等と連携した取組（平成26年度～）】

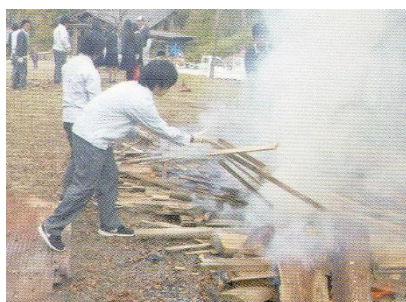
- 平成24年12月に策定した「滋賀県立高等学校再編計画」において、「地域に根ざした学校づくり」として、平成26年度から「同校を普通・セラミック・デザインの3系列を持つ総合学科へ改編し、地場産業等の地域の教育資源を活用した教育活動の展開や近隣校との連携、県外からも生徒を受け入れる（入学者選抜において5人を限度）ことで、学校活力の維持向上等を目指す」再編を実施。（総合学科2学級規模）
- セラミック（信楽焼）という地場産業に根ざした学習内容で特色化を図り、地域を挙げての支援も得ながら活性化を図る取組を行っている。
 - ※ 平成25年6月には、甲賀市が産学連携組織として信楽高等学校地域支援協議会を設立し、この組織を中心に、信楽高校の活性化のための具体的支援策や全国募集に向けた取組を行っている。

<具体的な支援策>（甲賀市予算による取組）

- ・ 伝統工芸士の派遣等によるセラミック系列・デザイン系列の学習支援
 - ※ セラミック系列の授業支援として伝統工芸士を年間3時間×約25週派遣
(平成30年度 2、3年)
 - ※ セラミック系列の作陶実習や登り窯焼成・野焼き実習やデザイン系列の絵付け実習(陶芸の森支援事業)
- ・ 県外生徒への宿舍の提供（紫香楽ヴィラ）、受入生徒の身元引受人の確保
宿舍支援費や生活支援費等の補助制度による就学支援策の提供
(宿舍賃貸料(食費込み)として月55,000円、生活・帰省費用として月5,000円)
- ・ 生徒募集に向けた他県への広報活動 等



【登り窯焼成実習】



【野焼き実習】



【生徒制作ポスター】

【長浜北高等学校におけるコミュニティ・スクールとしての取組（平成 28 年度～）】

- 「滋賀県立高等学校再編計画」において、平成 28 年度に長浜高等学校と長浜北高等学校を「長浜北高等学校」として再編統合した。（普通科 8 学級規模）

■ 地域課題解決に向けた取組

- ・ 地域課題を題材にしたアクティブ・ラーニングの視点に立った学びを深めるため、学校が所在する市町域の住民等の協力を得ながら、まちづくり・地域づくりを意識した取組への高校生の主体的な参画や社会貢献活動に取り組んでいる。

＜具体的な取組＞

- ・ 高校生が市民、大学、企業等と中心市街地の活性化を考えるプロジェクトに参加している。（長浜市による「高校生 Challenge & Creation プロジェクト」）
- ・ 地元自治会と生徒会による意見交換会の実施
- ・ 自分の将来を見据えた学びがある取組や、地域活性化のために貢献できる活動「自分がし体験事業」に 1 年生全員が参加する。

【「夏休みのびのび学習会」
でのボランティア】 →



【高島高等学校・安曇川高等学校と地元高島市が連携した取組（平成 29 年度～）】

- 生徒減に加え他地域の高校への進学が増えつつあり、両校とも学校の魅力化が課題となっている。（高島高校：普通科 5 学級規模 安曇川高校：普通科 1 学級総合学科 3 学級）

■ 地元高島市の「高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」による「地域連携による高校生キャリアデザイン事業」の取組

- ・ 市内 2 校の 1 年生全員を対象として、市内で働く大人との対話の中で、地域社会を知り、将来の生き方や暮らしを考えることを目的に、市内事業者や経営者、地域の協力を得て、高島らしい働き方や生き方を学び、自身のキャリアデザインについて考える「Work Life Story Expo」を実施している。

- ・ 安曇川高等学校総合学科と連携したキャリア教育推進事業として、高島市と高島屋の包括連携協定を活用し、共同で商品開発を行い、高島屋洛西店において販売実習を行った。商品開発した「高島の宝物（2 種類のトレーヌと名所めぐりクッキーのセット）」は高校生ビジネス・グランプリでベスト 100 に選ばれた →



【今後の課題】

- 地域との連携・協働による新しい学校づくりは、学級減に伴う教職員数の減等から、教員の負担が増大するとの懸念もあり理解が得にくい状況もある。学校の魅力化や特色化を図り、教員の働き方改革や負担軽減を推進するためにも、その必要性について教員の理解や意識改革等を図っていく必要がある。